

第1回 花火大会のあり方を考える会

会議録

【日 時】 令和5年9月19日（金）14:00～15:45

【場 所】 市民交流プラザふくちやま 市民交流スペース

【出席者】 （委員） 9名（別紙参照）

（事務局） 産業政策部 大西理事、西畑部長、山田次長

産業観光課 大江課長、田中係長

（関係機関） 国土交通省近畿整備局福知山河川国道事務所、京都府、
福知山警察署、福知山消防署

1 開会

2 開会挨拶

市 長： 平成25年に発生いたしましたドッコイセ福知山花火大会会場内での事故から、この夏で十年の月日が経ちました。お亡くなりになられました三名の方の御冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、御遺族の皆様や、今も後遺症等で苦しんでいる負傷者の方、御家族の皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

本市では、この十年に及ぶ皆様の深い悲しみ、苦しみに想いを致し、事故の記憶を永遠に心に刻み、今後とも命と暮らしを守る安全で安心なまちづくりを進めてまいり所存でございます。

さて、昨年夏に由良川河川敷においてサプライズの形で花火を打ち揚げた団体では、約3,000人の方が花火大会の再開・実施について前向きであるとのアンケート結果を示しておられます。

本市として、現段階では直ちに、協賛や後援を行う、また市自体が花火大会の主体となるという状況にはございませんが、先の6月市議会におきまして答弁申し上げましたとおり、地域活性化や安心安全な花火大会のあり方等について、御意見を伺うための場としてこの会を設置し、議論をお願いすることにした次第であります。

本考える会では、花火大会の開催を前提とするものではなく、まずは市民の皆様や被害者の方々の御意見を踏まえ、こうした議論をすることについて理解が得られているかを協議していただき、そのうえで仮に花火大会が開催

されるとした場合でも、皆様の理解が得られるためにはどのような形であるべきかといったことについて、協議いただきたいと考えております。

委員の皆様は、社会安全、法律、危機管理、地域振興や商業振興など、それぞれ専門的な知識と経験をお持ちでございます。

それぞれの分野から御意見をいただき、本市における今後の花火大会のあり方について提言としてまとめていただきますようお願い申し上げます。

3 委員紹介

委嘱状交付（机上配付）

4 会長・副会長の選出

会長 浦中 千佳央

副会長 国松 治一

5 説明事項

(1)平成 25 年ドッコイセ福知山花火大会以降の経過及び実施された花火打ち揚げ等【配付資料①】

平成 25 年：ドッコイセ福知山花火大会会場内における火災事故

平成 28 年～令和 4 年：由良川河川敷で計 7 回の花火打ち揚げ（夏 3 回、冬 4 回）

令和 4 年：花火を打ち揚げた団体がアンケート結果を市に提出

令和 5 年：由良川河川敷で 1 回の花火打ち揚げ（冬 1 回）

福知山花火大会への後援に関する請願が市議会に提出され、不採択

(2)「花火大会のあり方を考える会」設置【配付資料②】

設置要綱第 1 条（趣旨）のとおり、地域活性化や安心安全な花火大会のあり方について協議するため、考える会を設置する。

第 2 条（協議事項）と第 4 条（委員）のとおり、花火大会のあり方に関する事項について、学識経験者、専門知識を有する方、地域振興・商業振興等に係る方に協議いただく。なお、考える会において協議する花火大会は、夏季に由良川河川敷での実施を指すものとする。

考える会は今年度中に複数回開催し、場合によっては市民代表の委員をお迎えし、様々な立場から議論を深めて頂き、今年度末に市長に報告いただく予定としている。

(3)平成 25 年ドッコイセ福知山花火大会の概要【配付資料③】

実施日時：平成 25 年 8 月 15 日（木）19 時 30 分～21 時

打ち揚げ場所：一級河川由良川、猪崎地内右岸

会場：一級河川由良川（音無瀬橋）河畔

主催：ドッコイセ福知山花火大会実行委員会

共催：福知山市

主管：福知山商工会議所

花火の内容：6,000 発の花火

観客予想人数：約 110,000 人

事業目的：本事業を通じて“福知山”を全国的に広く PR し、多くの市民・市外からの来場者・帰省者を迎え、当地域の商業・観光の振興と経済活性化を図る。
あわせて「ゴミもちカエル」クリーンキャンペーン活動を通じ、環境美化への理解を深める。

(4) 花火の打ち揚げに必要な手続き等【配付資料④】

資料④に基づき、各関係機関より必要な手続きを説明

(5) 質疑

委員：平成 25 年の花火大会以降、平成 28 年から令和 4 年に河川敷で夏場に計 3 回の花火打ち揚げがあったということだが、時間帯・発数・規模等は。

事務局：発数や規模は把握できていない。

委員：これまでの 6,000 発のような規模ではないか。

事務局：例年されていた大規模な花火ではなかったと聞いている。

委員：福知山市屋外イベント等安全管理指針（平成 25 年制定、平成 26 年改定）は、配布やチェック、講習等、今現在はどうのように使われているのか。

消防署：現在も露店等を出店する主催者もしくは関係者に渡して説明している。また、年に 1 回は屋外イベント等を安全に開催するための講習・研修会を開催しており、講習の中でも使用している。

委員：地域で火気を使用するイベントがある場合は、消防署が現場に行って確認を今現在も行っているのか。

消防署：届け出のあったイベント等について、福知山市屋外イベント等安全管理指針を渡すだけでなく、一定規模以上のイベントについては現地で検査・指導を行っている。

副会長：考える会の位置付け、福知山市と考える会の関係について聞きたい。考える会は要綱に基づき設置されており、福知山市の組織の中の会議体と思われるが、考える会が活動する中で、福知山市から独立した会議体なのか、組織内部そのものなのか、どういう趣旨で設置をされたのか。

事務局：独立性を持って議論いただき、福知山市へ結果を報告いただきたい。

6 協議事項

(1) 市民の意見聴取について（市民アンケート、市民委員）

○事務局より市民の意見聴取について（市民アンケート、市民委員）説明

会 長：市民アンケートと市民委員について、実施すべきか否かという点を委員の皆様からご意見をいただきたいと考える。

委 員：福知山の花火大会は夏の一大イベントであり、楽しみにしていた一人だった。しかし、再開となるとお亡くなりになられたご遺族、被害を受けた方の心情、ご意見は外せない問題である。ただ、事故から 10 年が経ち一歩踏み出す時が来たと考える。その中でできるだけ広く市民にアンケートを行い、どのような形で市民委員を選ぶのが良いのか、現時点で考えを持ちあわせてはいないが、市民にも委員に入ってもらい、市民の声を直接聞くということは大切なことと考える。

委 員：市民委員に賛成。可能であれば女性が 1 名入ってもらえたら嬉しい。選考法は市にお任せしたい。

委 員：女性のご意見は必要だと思うので賛成。アンケートについて質問、年代ごとの抽出数にばらつきがあるのはなぜか。また、アンケートの回収率について、どのくらい回収できれば統計的に有効的であるか、事務局で想定をされている数値を教えてください。

事務局：アンケートは 16 歳以上の方を対象に 3,000 名を無作為で抽出して実施を考えている。年代ごとにばらつきがあるのは各年齢階層の人口の集団の大きさに比例して抽出数も変えている。どの世代の方にもアンケートが届く確率が同じになるようにしている。回収率は 3 割～4 割見込まれると考えている。専門家の先生によると、それだけあれば、場合によっては 3 割を下回ったとしても全体の傾向が統計的に分析可能と助言いただいている。

会 長：花火大会のあり方について協議を進めていく上で、市民の皆さんのご意見は検討にあたり参考になる。会長の立場としても市民の代表の方をお迎えして議論に加わっていただくことはむしろ必要だと考える。「市民アンケート」と「市民委員」の公募について、いずれも実施することに決定したいと思うが、委員の皆様よろしいか。

委 員：賛成（異議なし）

会 長：続いて「市民アンケート」の内容等について協議を行う。既に「市民アンケート」の内容について事務局からご説明いただいたが改めて詳細にご説明いただきたい。

事務局：市民アンケートの目的は、花火大会のあり方を考える会において、地域活性化や安心安全な花火大会のあり方等について協議を進めていただくため、市民の皆様から幅広い意見を伺うことである。スケジュールについて、実施期間は令

和5年10月中旬から11月中旬までを想定している。分析結果は令和5年12月中旬に取りまとめ、第2回会議にて、委員の皆様へ報告したいと考えている。配布数は無作為抽出の市民3000人、年齢は16歳以上とする。配布数は年齢別の人口を考慮せずに、どの世代も満遍なく同じ配布数にするという考え方もあるが、事務局案としては8月末時点の年齢別人口統計に基づき、年代ごとに均等になるよう算出をしている。アンケート内容について、開催時期は夏、開催場所は由良川（音無瀬橋河畔）での花火を指す。質問は全部で9問。質問形式が6問、自由記述式が1問、回答者の属性を問うものが2問という構成になっている。「問1」では、花火大会の開催について、市民の皆様の考えを把握したいと考える。回答は賛成、必要な対策が講じられた上で開催されるのであれば賛成、反対、分からないの4択とする。「問1-1」では、賛成もしくは必要な対策が講じられた上で開催されるのであれば賛成を選ばれた方にその理由を、「問1-2」では、必要な対策が講じられた上で開催されるのであれば賛成を選ばれた方に必要な対策を、「問1-3」では、反対を選ばれた方にその理由を、「問1-4」では、分からないを選ばれた方にその理由をそれぞれ尋ねている。「問2」では、花火大会当日、観覧するとすれば、どのような方法で観覧したいと思うかを尋ねている。「問3」では、花火大会での自由記述、「問4」では性別、「問5」では年齢を尋ねている。

会長：事務局案に対して、追加すべき質問事項、ご意見等ないか。

委員：市民アンケートの分析結果については本会議のみで公開するのか。誰もが見るようにしないのか。

事務局：分析結果については、回答者の個人情報が特定できないような方法で市民の皆様にも共有したいと考えている。

委員：無作為に抽出して市民にアンケートを行うことは非常に良いことと考える。ただ、アンケートが当たらなかった方でも意見を言いたい方がいると思うが、そういった方の声を拾い上げる意見箱や掲示板といった方法での情報収集はどうか。

事務局：本日の段階ではそのような方法を考えていなかった。アンケートを送り、回収できた方と同等の重みでカウントするかどうかは慎重な判断が必要になってくると思う。手段そのものを閉ざすか否かは皆様のご意見と共に検討したいと考える。

副会長：アンケートを誰の名前で行うのかという問題があると思う。案では福知山市が行うということになっているが、花火大会のあり方を考える会が市から独立して活動できる立場にあるのであれば、考える会の名前で行う方法もあるように思う。文案には福知山市としては完全に白紙とあえて書いてあると思うが、今後当事者として関与するかもしれないという意味で、当事者に準じる立場に見

られる可能性もあると思う。それであれば少しそれとは距離のある名前で行う方が回収率の問題も含めて、市民の方がどのようにアンケートを捉えられて、好意的に積極的に回答されるのか、問題が少ないように思う。どちらが良いかという意見を持っているわけではないが、より良い回収率を求めるためには誰の名前で行うのが良いかということは議論しても良いと思う。

事務局：アンケートを実施し、無作為抽出から配布回収、分析まで福知山市で行うことを考えていた。福知山市は事務局ではあるが、考える会の皆様の依頼を受けて福知山市が実施しているといった体裁で行うこともありかと思う。皆様と協議をしたいと思う。

会長：所属している京都産業大学の社会安全警察学研究所が1月～2月に全国の人を対象にDVや児童虐待等と警察の信頼に関して、世論調査を行った。回収率を上げるために回答するとインセンティブがもらえるという方法で行ったが、通常7割程回答いただけるところだが5割～6割の回収率だった。通常の世論調査だと大体3割～4割が回収率になり、それでも十分しっかりした分析ができる。このままアンケートを行っても3割～4割ぐらい集まるのではないか。ただ、それではもっと多くの人の意見を聞きたい場合、一体どうしていくのかという仕掛けは必要だと思う。一方で名義についてはどうすればよいか。

委員：「花火大会のあり方を考える会」という文言自体も、おそらく市民の皆様には浸透していないと考える。市との連名というのはいかがでしょうか。また、アンケートの文言の内、「現段階でただちに後援する状況ではなく、市が花火大会の主体になる予定もありません」は、読み方によると未来永劫に市は関わらないと取られかねない。反発や誤解を与えないような文言に変更してはどうか。

委員：市民アンケートについて、「現段階でただちに後援するという状況ではなく、市が花火大会の主体になる予定もありません」や「考える会で進める協議は花火大会の開催を前提としたものではありません」というように記載があるが、市民の方に広く知ってもらうためには、もう少しアンケートに対して積極的に参加していただけるような文言にする必要がある。委員会だけが認識するのではなく、幅広く福知山市の市民全体に行き渡り理解してもらうことが先決だと考える。アンケートの回収について、全ての方が回答されるわけではない。回答数について、当然3000人のうち30%もあればということで、大体900人の回答があればというようなお話があった。以前、NHKが紅白歌合戦について、アンケートを行った場合に、実はその時は関東一円にお住まいの600の方にアンケートを出し、その回答を日本全体（約1億2000万人）の意見として反映するような母集団の取り方もあったと思うので、中身の内容について精査をしても良いのでは。要は、市民に行き届くことが大事であり、委員会のメンバーが把握して、考える会を進めていく部分の話になるということも一理あるが、

もう少し親切丁寧な文章の方が具体的に積極的にアンケートに答えていただけるのではと考える。

会 長：アンケートに関しては、事務局に預かっていただき、もう一度各委員の方と揉んでいただくということでしょうか。

事務局：本日のご意見について、アンケートを改訂したいと思う。事務局からお願いで恐縮ですが、今週末（9/22）を期限に、その他ご意見があるようでしたら、事務局にご連絡いただき、アンケートの案を固めていきたいと思う。固まった案を委員の皆様にはフィードバックするというような形で進めて行けたらと考える。

副会長：誰の名義でアンケートを実施するかによって内容も当然変わってくると思う。そういう意味で、名義としては市でされるものであっても、アンケートの内容については考える会の中で審議の上、作っていったらと思う。

会 長：続いて、「市民委員」について、協議を行う。市が設置する他の委員会等で市民から委員を公募する場合、人数や選考方法はどのような形で実施しているかご説明願いたい。

事務局：今回のように約 10 名の方が委員とする委員会については、市民委員は 2 名程度を募集、募集条件については、委員会のテーマ内容に興味関心があり、建設的な意見を述べることができる人、平日昼間の会議に継続して出席が可能な方、市内に在住または在勤、通学している 18 歳以上というのが募集条件としては多い。選考方法については、応募動機やこれまでの活動経歴を応募用紙にご記入いただいた上で書類選考を行うことが、他の委員の事例としては多い内容になっている。

会 長：市民委員の募集について何かご意見ないか。

委 員：市民委員の最終選考での最終判断は誰になるか。

事務局：他の公募委員の場合、市の担当課が応募用紙を回収し、継続した検討会議体の学識経験者の方にも加わっていただいて、書類等による選考を行うパターンがあるが、本件の場合はテーマの性質もあるため、委員会のメンバーのみで選考を行うことを考えている。

会 長：選考について、何かご意見あるか。

委 員：確かに事務局だけでなく、委員も選考に入るのが良いとは思いますが、スケジュールの都合上、事務局と正副会長に一任が良いと考える。委員についてはスケジュールの都合が合えば選考に参加する形が良いと考える。

会 長：選考方法に関し提案があったが、事務局と正副会長とで選考する方でよいか。

委 員：賛成（異議なし）

(2)関係者へのヒアリングについて

○事務局より関係者へのヒアリングについて説明

会 長：市民の皆さんのご意見同様に、事故にあわれた被害者、ご遺族の方々のお気持ち、由良川河川敷で花火を打ち揚げた団体のご意見は、今後の検討にあたり大変参考になると考える。事務局案に対するご意見がありましたら頂戴できればと思う。

委 員：ヒアリングの件で、被害者の方、ご遺族の方、花火関係者の方のご意見は大変参考になるため、できる限り書面だけではなく、対面等でも実施できたらと思う。また、花火関係者の方には団体のどの役職で花火に携ってこられたかをヒアリングしたい。一人だけではなかなか全体が見えないと思うので、関わられた方に広くヒアリングすることが重要と考える。また、花火大会が続いている地域でも多くの課題があり、事故以外のことでも地域との連携の部分で課題が多いと思う。あり方を考えるという部分では、今後福知山市が実質花火大会の開催を検討する時に他の地域の課題を参考にする必要はあると思う。全国の立地条件や開催規模、人口規模等が類似する、あるいは今課題を抱えている花火大会の社会団体、実行委員会の方へのヒアリングも大変参考になると考える。

事務局：他の地域で実施されている団体に花火開催の実施にあたる課題等を直接聞ける範囲で調査したいと考える。

委 員：対象の被害者やご家族、ご遺族の方々のところで「考える会や福知山市に知っておいてほしいこと」と記載があるが、突然「福知山市」と入っているのはなぜか。意図があれば教えていただきたい。

事務局：意図はありません。

委 員：確認として、今回はあり方を考える会としてのヒアリングで間違いはない。福知山市としてのヒアリングではないか。これまでもご遺族や被害者の方にはヒアリングをしていると思う。それとこれとの違い、あくまでも花火大会のあり方を考える会としての新たな一歩を進むためのヒアリングだというような形にしないと少し違うのかなと考える。これまでもお話されたことのある方へ、再度ヒアリングする可能性があると思う。非常にデリケートの問題だが、あくまでも次の一歩のためのヒアリングをさせていただくというスタンスで、ぜひお願いしたいと思う。ヒアリングは市の担当者が行うのか、会長含めて行うのか十分考える必要があると考える。

事務局：被害者やご家族、ご遺族の方々について、何回かお出合いし、お話を聞かせていただいたことはある。ただ、市として花火大会のことについてお聞きしたことはない。いろいろなお気持ちがあるのでお聞きするにあたって、被害者やご家族、ご遺族の方々に配慮した方法が重要であり、お聞きする内容についてもあり方を考える会の中で十分ご議論いただきたい。まずは事務局にて書面で

意向を確認させていただいた上で、対応をしていきたいと思う。

委員：先ほどと引き続きの話になるが、関係者へのヒアリングを考える中でこれまで被害者の方と行政や関係団体がどういう経緯で話をされてこられたか、経緯がわからない部分がある。経緯によってはヒアリングの内容について多少変わってくると思う。今回の資料にはそういったことに関して記載はなかったもので、我々に対して理解できるようなものが必要かなと思うのでご準備いただきたい。

事務局：必要な部分は情報共有させていただきたいと考える。

委員：由良川河川敷で花火を打ち揚げた団体について、事務局では何グループという把握をしているか。

事務局：3つの団体と認識をしている。

委員：3つの団体と対面や書面形式で話ができるということによいか。

事務局：そのようお願いをする予定。応じていただけるかどうかは分からないが努力をしていく。

会長：市民アンケート、市民委員、関係者へのヒアリングについて、議論させていただいた。先ほど事務局からあったとおり、その他ご意見のある方は9/22（金）までに事務局である産業観光課まで申し出ていただきたい。また、市民アンケートの内容、市民委員の公募方法、ヒアリングの実施方法等について、委員の皆様からご意見をいただき調整を行う。最終決定については、正副会長に一任するということがよいか。

委員：賛成（異議なし）

7 その他

会長：私と副会長は京都市内から来ており、福知山のことはあまり分かっておらず、特に由良川河川敷について、実際に現場に行かないと分からないので、視察を行いたいと思っている。今後の会議において、現地視察を行うことを事務局に検討いただきたい。

事務局：次回以降の会議で検討していきたいと思う。

会長：その他ご意見が無いので協議を終了したいと思う。

8 閉会 【次回会議】第2回花火大会のあり方を考える会は12月を予定。